

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
介護の基本Ⅲ Fundamentals of Care III		1年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	(介護福祉士養成課程 必修)	介護福祉士養成課程の学生のみ履修可
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
介護の基本Ⅰ・介護の基本Ⅱ				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
介護福祉士養成課程必修科目				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
大熊 信成	福祉棟3F	火・水・木・金の9時から16時（授業時間を除く）		授業中に指示します
授業の概要				
<p>「尊厳の保持」「自立支援」を理解するとともに、「介護を必要とする人」を「生活する人」として捉えるための学習である。一人ひとりの利用者の意向や生き方、生活習慣などを理解し、「その人がその人らしく生きることを支援する」こととは何かについて具体的に学び、その実践力の習得を図る。</p>				
授業の目標				
<p>①その人の「暮らし」「価値観」「意識」「生活様式」「習慣」などの多様性・複雑性を理解し、説明できるようにする。 ②高齢者及び障害のある人の生活の実際とその生活環境を理解し、説明できるようにする。 ③高齢者及び障害のある人への生活支援の必要性を理解し、説明できるようにする。 ④高齢者および障害者に提供される介護サービスの具体的な内容を理解し、説明できるようにする。 ⑤介護福祉士として、総合的・客観的に対応できる能力と洞察力を身につけることができるようにする。</p>				
授業の方法				
基本的に講義形式とするがグループワークを随時取り入れていく。具体的かつ実践的に理解でき、総合的・客観的に対応できる能力と洞察力を養うことを目的とする。				
学習の成果（学習成果）				
<p>①利用者の気持ちに沿った支援を展開していくことができる。 ②利用者の「価値観」「意識」「生活様式」「習慣」などの多様性・複雑性を具体的に説明できる。 ③介護サービスの具体的な内容を把握し、サービスに対応できる能力と洞察力を養えることができる。</p>				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス（授業のねらいと進め方・成績評価方法・授業中の留意点など）			
第2回目	その人らしさの理解：生活史・生活習慣・生活様式（生活文化）・生活リズムなど			
第3回目	高齢者、障害者の共感的理解① 相手の立場になってみること			
第4回目	高齢者、障害者の共感的理解② 相手の立場になってみること 視聴覚教材「二人だけで生きてかった」			
第5回目	多様性と複雑性の理解：価値観の多様性（生活観など）・役割意識・他者と社会とのつながりなど			
第6回目	高齢者や障害のある人たちの暮らしの実際と理解：家族の機能と役割・健康・生活など レポート「共感的理解とは」※提出は第7回目の授業日			

第7回目	介護サービスの意味とその特性について①	その人らしく生きることとは「バイステックの7つの原則」
第8回目	介護サービスの意味とその特性について②	これからの課題「バイステックの7つの原則」
第9回目	ICFの視点に基づくアセスメント①	介護におけるICFの考え方
第10回目	ICFの視点に基づくアセスメント②	ICFの視点と観察の視点 レポート「ICFとICIDHの相違点」 ※提出第11回目の授業日
第11回目	生活環境の理解①	家族・地域・社会との結びつき 社会資源について
第12回目	生活環境の理解②	施設におけるハード面とソフト面について
第13回目	生活障害の理解と生活ニーズ①	生活障害とは・関係性の障害について
第14回目	生活障害の理解と生活ニーズ②	ニーズとは何か・生活のニーズについて
第15回目	生活障害の理解と生活ニーズ②	ニーズとは何か・生活のニーズについて
事前・事後学習	ITや図書館を活用して、授業で不明であった点は必ず次回授業までに調べておくこと。また、科目担当者や担任に質問に行くこと。常に分析をする視点を持つこと。	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	20%	グループ討議、ロールプレイをおこない、積極的な参加態度を評価する。自分の意見を明確に述べることができ、且つ、異なる意見に対しても傾聴でき、建設的なグループワークができているかを評価する。
レポート	20%	提示するテーマについて自分の言葉で述べる事ができる。最高評価であるSは意欲的に課題に取り組んでおり、着手すべきテーマの趣旨に沿っていて、学習の成果が十分に示されている。
調査報告書		
小テスト		
試験	60%	論述、選択記述式の定期試験を行い、評価する。論述は根拠(エビデンス)に基づき自分の言葉で述べられていること。
発表内容(態度含む)		
その他		
教科書と参考図書		
大熊信成他編著 『社会福祉形成分析論』 大学図書出版 他、授業中に資料を配布します。		
履修上の留意点・ルール		
一部視聴覚教材を使用し、内容をレポートで確認する。目的意識・課題意識を明確にして授業に臨み、口頭で述べたこともきちんとノートにとること。遅刻・早退・私語・居眠りは厳禁。		